

■ 経済的な立地条件および自然的な立地条件等の特性に応じて、(A)～(G)に区分し、場所毎に目標とする森林像を規定

- これは、限られた予算を有効に活用するため、保安林等の既存制度も活用しながら森林区分ごとにメリハリの効いた施策を展開する目的も

「森づくり構想」11～14頁

森林区分番号	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	(F)	(G)
景況 区分名称	林業経営林			人工林			
立地条件等の特性	林業経営林			人工林			
	林業経営移行林			針広混交誘導林			
所有者の現在の意志	経営意志有			経営意志無			
林業的な不適	適地			現状不適地(将来適地)			
管理基本方針	補助を活用した自己管理			補助を活用した自己管理			
施業方針	○適地確保 ○海軍等基礎整備 ○早業人工林 ○伐採後は再造林			○適地確保 ○海軍等基礎整備 ○早業人工林 ○伐採後は再造林			
特長(100年後)の森林像	公益的機能が高い林業経営林			人工林			
				針広混交誘導林			
				利用天然林			
				天然林			
				樹生遷移林			
				樹生保護林			
道路からの距離、地形・地質、現存樹生等の経済的資源、自然的環境から、公益的機能に配慮しつつ林業経営を目的として森林管理をすることが望ましい場所	道路からの距離、地形・地質、現存樹生等の経済的資源、自然的環境から、公益的機能に配慮しつつ林業経営を目的として森林管理をすることが望ましい場所			道路からの距離、地形・地質、現存樹生等の経済的資源、自然的環境から、林業経営よりは公益的機能を重視した森林管理が望ましい場所			
現存樹生は人工林で、現在または将来的に森林が見込め、かつ所有者に経済性として積極的に経営する意志があることから、林業経営することが望ましい場所	現存樹生は人工林で、現在または将来的に森林が見込め、かつ所有者に経済性として積極的に経営する意志があることから、林業経営することが望ましい場所			現存樹生は人工林で、道路から遠いので現在は採算が見込めないが、道路整備等によって効率的な林業経営ができるように移行することが望ましい場所			
現存樹生は人工林で、経済的環境から採算が見込めるため、補助制度等の節制により、所有者の経営意欲を高め林業経営することが望ましい場所	現存樹生は人工林で、経済的環境から採算が見込めるため、補助制度等の節制により、所有者の経営意欲を高め林業経営することが望ましい場所			現存樹生は人工林で、将来的にも採算が見込めないことや環境保全上の観点から、換置伐等により自然回復した樹種を植えた針広混交林化への誘導が望ましい場所			
現存樹生は人工林で、所有者に天然林として利用する意志があり、いわゆる里山林として利用していく場所及び一般市民に開放する市有林、NPO等による整備林	現存樹生は人工林で、所有者に天然林として利用する意志があり、いわゆる里山林として利用していく場所及び一般市民に開放する市有林、NPO等による整備林			現存樹生は天然林で、所有者に天然林として利用する意志が強い。基本的には自然の樹生遷移に任せることが望ましい場所			
現存樹生は天然林で、自然環境の保全の観点から天然林の維持が必要場所	現存樹生は天然林で、自然環境の保全の観点から天然林の維持が必要場所			現存樹生は天然林で、所有者に天然林として利用する意志が強い。基本的には自然の樹生遷移に任せることが望ましい場所			
経営意志有	経営意志有			経営意志無			
適地	適地			現状不適地(将来適地)			
補助を活用した自己管理	補助を活用した自己管理			補助を活用した自己管理			
○適地確保 ○海軍等基礎整備 ○早業人工林 ○伐採後は再造林	○適地確保 ○海軍等基礎整備 ○早業人工林 ○伐採後は再造林			○適地確保 ○海軍等基礎整備 ○早業人工林 ○伐採後は再造林			
公益的機能が高い林業経営林	公益的機能が高い林業経営林			人工林			
針広混交誘導林	針広混交誘導林			針広混交誘導林			
利用天然林	利用天然林			利用天然林			
天然林	天然林			天然林			
樹生遷移林	樹生遷移林			樹生遷移林			
樹生保護林	樹生保護林			樹生保護林			

構想立ち上げ当時は、所有者の意思も考慮に入れた各区分を地図上に表現しない、画期的なゾーニング(森林区分)

市内森林のゾーニングに関する検討

■ 現状と課題

- 林業経営林(A)、林業経営移行林(B、C)における間伐の遅れ
 - 間伐(切置き・利用ともに)実績向上の取組が急務
- 針広混交誘導林(D)の実績の伸び悩み
 - 現在の人工林50～70%を100年後に針広混交林化へ移行することが大きな柱であるが、この8年間の実績は限定的
 - 針広混交林化に向けた知見が限定的であり、またモデル林等がないため、所有者への提案が困難



■ 対策の方向性

- 立地条件等の特性に応じた森林区分と施業方針等について、針広混交林の拡大や間伐面積の拡大を目指すために見直し

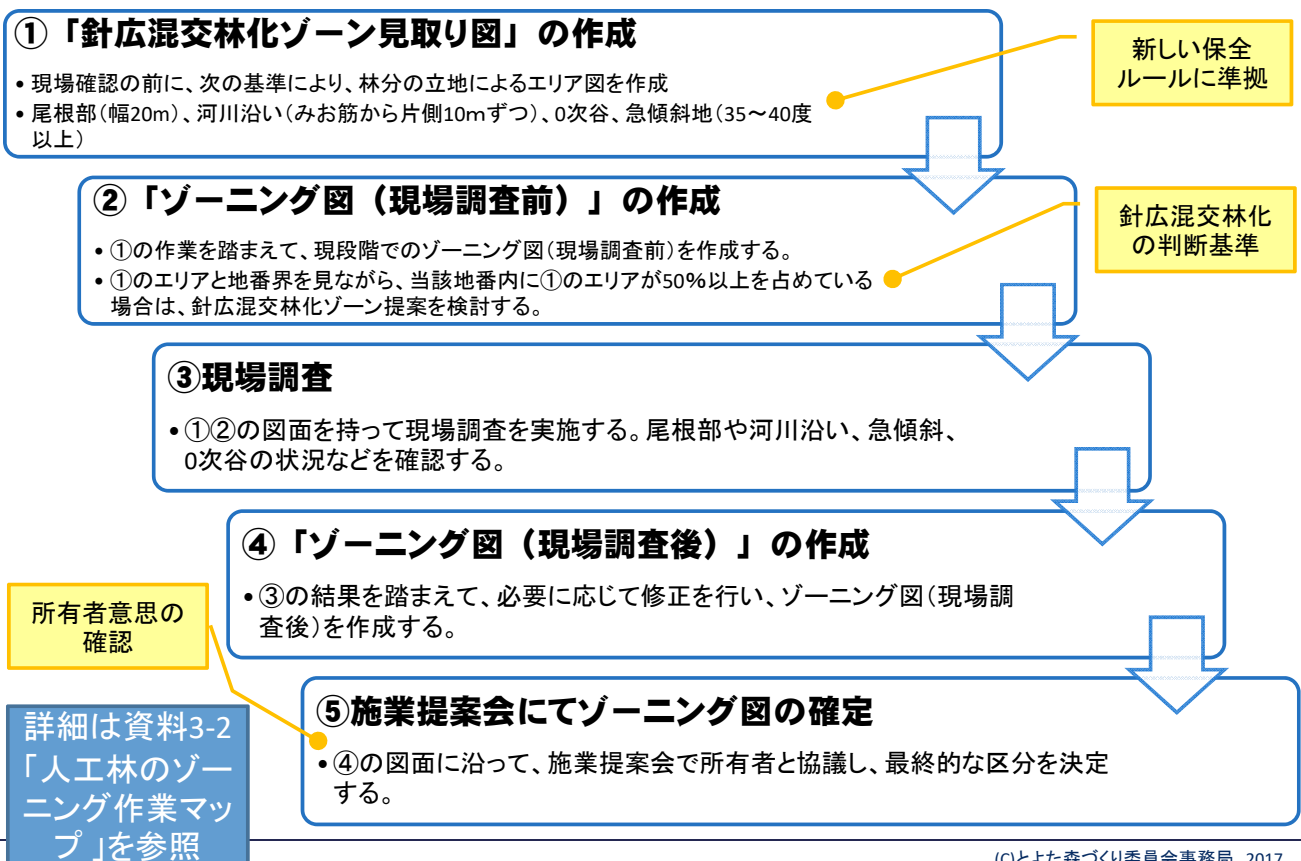
■ 森林区分と施業方針の見直し/「針広混交林」の定義の再検討
 ■ 人工林のゾーニングの作業フロー
今回の提案事項

森林区分		A	B	C	D
現況		人工林		天然林	
区分名称		人工林維持ゾーン	針広混交林化ゾーン	利用天然林ゾーン	植生保護林等ゾーン
推進基準	立地条件等の特性	緩傾斜で、右記の針広混交林の特性以外のエリア等	尾根部などで林分蓄積の低いエリアや、急傾斜地や沢沿い、0次谷等防災保全上重要なエリア等	緩傾斜で、左記の針広混交林の特性以外のエリア等	自然環境の保全の観点から天然林の維持が必要な場所等
	木材生産の適・不適	適地	不適地	—	—
施業方針		<ul style="list-style-type: none"> 通常間伐 路網等基盤整備 単層人工林 伐採後は再造林 	<ul style="list-style-type: none"> 通常間伐及び強度間伐 既存の広葉樹等を生かして混交林化 	<ul style="list-style-type: none"> 拡大造林はせずに天然林を維持 	—
将来(100年後)の森林像		公益的機能の高い人工林	針広混交林／天然林	天然林	天然林
将来の管理コスト(目標)		中	低	中	低

2017/3/2

(C)とよた森づくり委員会事務局 2017

提案: 人工林のゾーニングの作業フロー



(C)とよた森づくり委員会事務局 2017